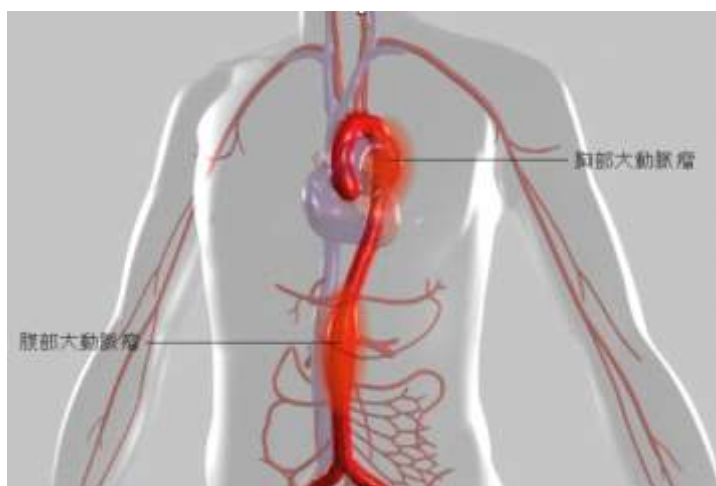


大動脈瘤の治療

● 大動脈瘤とは

大動脈は心臓からの血液を全身に送り出すための主幹動脈です。動脈硬化や高血圧などにより大動脈の壁が薄くなって大きく膨らんでくる病気が大動脈瘤です。

動脈のどこにでもできる可能性がありますが、腹部（腹部大動脈瘤）で最もよく見られます。次に胸部大動脈瘤で心臓に近い部位から、背中中の部位まであります。



大動脈瘤があっても、症状が全く無いことが殆どですが、放置しておくと、瘤が破裂する危険性があります。

破裂すると、命を落とすことが多いため、非常に恐ろしい病気の一つです。診察ではわからない場合もあります。胸部レントゲン検査では胸部大動脈瘤が発見される場合もありますが、腹部大動脈瘤は単純レントゲン写真では診断が困難です。CT検査で腹部、胸部とも確実に診断できます。

瘤の範囲から大きさまで判定でき、手術をする場合にも参考になります。

大動脈瘤の治療方法

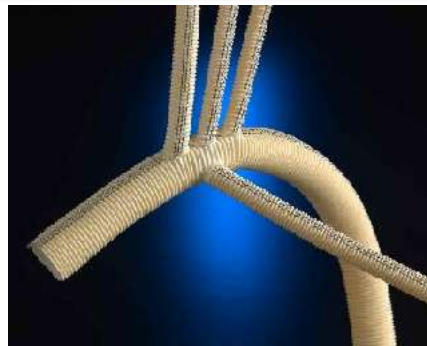
(1) 薬物療法

動脈瘤が小さい場合は、血圧を下げる薬（降圧剤）等で血圧をコントロールして、血管壁に過度な負荷がかからないようにします。

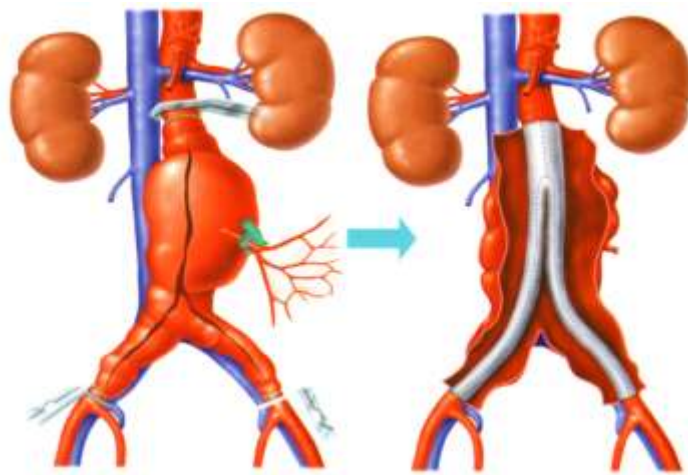
(2) 外科的手術

①人工血管置換術

大動脈瘤が大きく破裂の危険性がある場合は、手術（人工血管置換術）を行うことが標準的な治療方法となっており、人工血管置換術で良好な長期成績が得られています。



人工血管



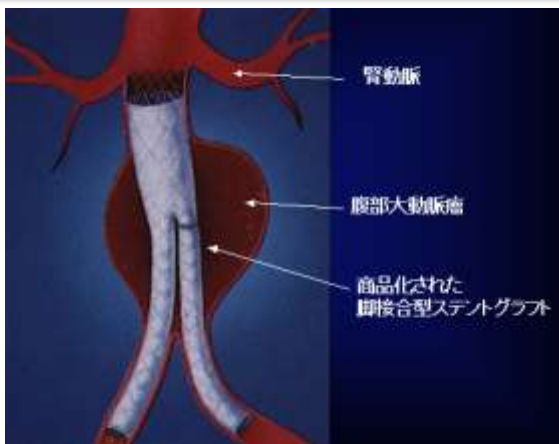
腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術



胸部大動脈瘤に対する人工血管置換術 (術前⇒術後)

②ステントグラフト挿入術

手術の危険性が高い場合（高齢、合併症が多い場合など）は人工血管置換術が困難なことがあり、このような場合には、より低侵襲な治療法として大腿部の動脈よりカテーテルで人工血管を留置するステントグラフト挿入術が行われます。



腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術